

かわらばん 妻入り

事務局
新潟県出雲崎町
教育委員会
☎0258-78-2250
FAX 78-4559

協議会総会開催!

去る6月27日(水)に、平成24年度出雲崎妻入りの街並景観推進協議会総会を開催し、平成23年度の事業報告及び決算報告、平成24年度の事業計画及び予算、今年度の役員体制についての承認及び決定をいただきました。

昨年度は、佐渡の小木・宿根木地区及び相川地区への先進地視察、東京藝大の大学院生及び大学生が出雲崎の町を描いたスケッチ画を、妻入りの町屋等に展示した街並ギャラリー、またその街並スケッチ画346点全てを町民体育館に展示

した街並みスケッチ画展、そして新潟県内の「まちなみ」や歴史的建造物に関わる人たちを集め、相互学習や情報の交換を行った、第6回まちなみネットワーク 出雲崎大会など、様々な事業を行いました。今年度も昨年と同様、協議会会員が丸となつて活動をしていきたいと思ひます。

協議会の活動はA・B・Cの3

グループに分かれて行っておりま

す。今年度の各グループの事業計画は、次のとおりです。

Aグループ

○先進地視察

街並みがきれいに整備されている地区や、地域づくり・町の活性化に熱心に取り組んでいる地区への視察をいたします。

Bグループ

○おもしろ看板の設置

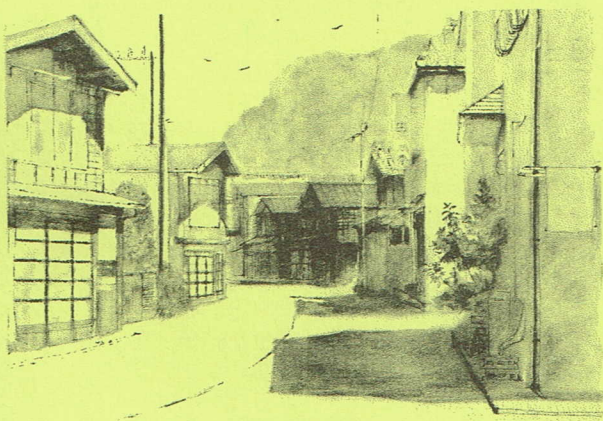
出雲崎のむかしばなしなどを書いた「おもしろ看板」を随時作成・設置し、地域の皆さんや町に散策に訪れた皆さんから楽しく『妻入りの街並み』を歩いていただける様にしていきます。皆さんの知っているむかしばなし等がありましたら、情報をお寄せください。また、看板の設置場所を提供していただける方も募集しております。

Cグループ

○かわらばんの発行

当協議会の活動状況や街並みの歴史、街並みを見た人たちの感想などを載せた「かわらばん 妻入

り」を発行し、「妻入りの街並み」の魅力を発信してきます。(年3回、毎年四・八・一月に発行しております。)



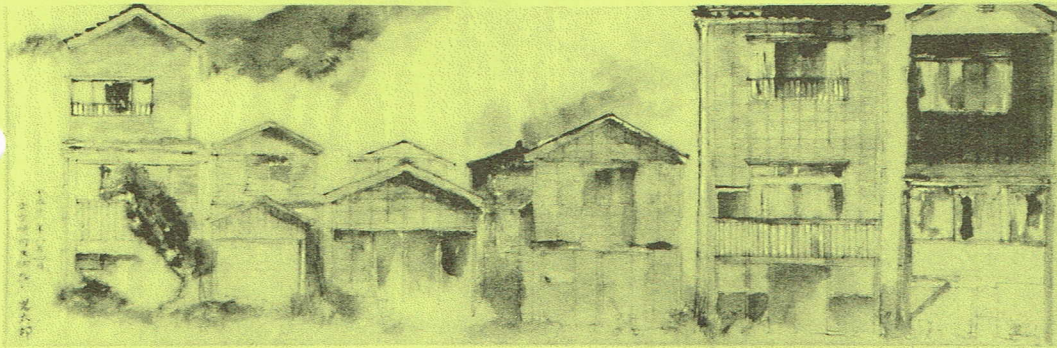
また、平成15年度から9年間の長きに渡り、会長として当協議会をリードしてくださった渡辺常侃さんが、この度会長職を退かれることとなりました。それを受けまして、今回の総会での決議により、住吉町の村越隆夫さんが新たに会長に就任いたしました。

ごあいさつ

会長 村越 隆夫

この度、私達の「出雲崎妻入りの街並景観推進協議会」の総会で会長を仰せ付けられました。よろしくお願い申し上げます。歴代会長の鈴木豊吉さん、佐々木貞治さん、そして渡辺常侃さん、それぞれ皆さんが町の歴史のこと、今の現況のこと、豊富な知識と、ふる里への活性化の強い思いを、先頭に立って推進してこられました。このような先輩方を思うとき、私は知識、経験共に、あまりにも貧弱さを感じ、強い不安感を覚えます。しかしながら、今まで協議会で行なってきた主な活動の「街並ギャラリー」、「街を花で飾る木製プランターの製作提供」、「空地・空家の現況調査」、「研修旅行」、「《かわらばん妻入り》の発行」などの継続を基本活動として、私は、ふる里の「妻入りの街並景観を生かしたまちづくり」を「メインテーマ」として、会員、地域の皆様と一緒に

に推進してまいりたいと思っております。微力ですが、今後ともご協力宜しくお願い申し上げます。



ようこそ出雲崎へ！

今年度は、出雲崎小・中学校、役場、駐在所に併せて20人の方が新しく赴任されました。そのうち、4人の方から、出雲崎町へ来ての感想をお伺いしました。

出雲崎町に赴任して

出雲崎中学校

校長 坂上 欣也

出雲崎中学校に赴任して四ヶ月が経ようとしています。

かすみ立つ

永きはるひに

子供らと

遊ぶ春日は

たのしくあるかな 良寛

教育委員会の佐藤課長の紹介で、さつそく良寛さんが子どもと遊ぶ絵と右の句が入っている名刺を作りました。出雲崎と言えば、良寛さんと海というイメージでした。しかし、良寛さんのことも良く知

らなかつたので、学校の図書館にある本を借りて読みました。また、町教育委員会発行の「わたしたちの出雲崎町」を読んだりもしました。磯部友記雄さんを講師として一年生の総合的な学習の時間に小本ノ城跡を見学しました。そこで、藤巻、荒、出雲崎、小矢場、久田などにも城跡があることを知りました。その他、小本ノ城跡が漁業協同組合の土地であるとか、出雲崎町は山の多い土地であるとか、さまざまなることを知ることができました。

さて、出雲崎中学校の生徒は、とても素直で明るく、いろいろな活動に一生懸命取り組みます。素晴らしい生徒達だと思います。また、町で一小学校、一中学校ということもあり、行政と学校との距離がとても近いと感じています。町の職員の方も、生徒のことを良く知っています。また、PTA、後援会、同窓会等の皆さんも、学校に対してとても協力的で、熱心に活

動してください。

良寛さんの故郷で、素晴らしい生徒たちがその力をより伸ばせるよう微力を尽くしたいと思います。

出雲崎の昔を思う

出雲崎小学校

教頭 桑山 明夫

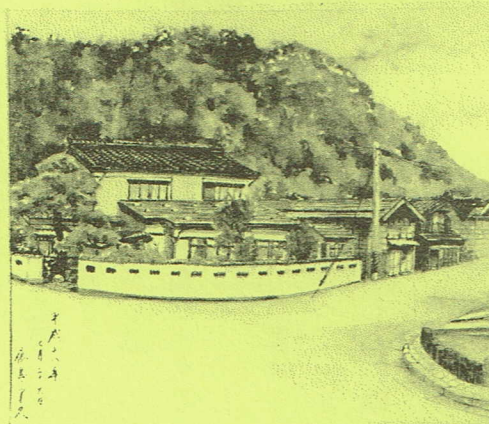
長岡から出雲崎までの通勤に慣れた頃、途上、道路脇の表示板に北国街道とあるのが気になった。それとはなしに調べてみたら、佐渡からの金銀を運ぶために大切な脇街道だったらしい。今と同じく、当時もこの街道を多くの人や牛馬が行き交ったのであろう。牛車や馬車を引く馬子たちの会話を想像しながら、街中を歩いてみた。

北国街道沿いの港町、出雲崎。北前船の出入りもあって、代官所まであったというから大したものだ。さぞや賑やかな宿場町だったのだろう。ここに、どんな役人がいたのだろう。どんな沖中士（おきなかし）がいたのだろう。今のよう交通手

段が発達していなかった時代。どこに行くにしても何を運ぶにしても、本当に大変だっただろう。しかも、現代人より体格は小さかったはず。先日、出雲崎祭りで御輿を担ぐ若い衆を見た。昔の人は一俵（8kg）を担いでいたという。今の若い衆たちはそれを担げるのだろうか。

その御輿担ぎで賑わう妻入りの街並。その昔、さぞや賑わったのだろう。益々想像が膨らむ。当時の旅籠屋は、今の旅館や民宿として引き継がれているのだろうか。それにしても、妻入りの街並を残そうとする商店街や町民の努力には敬服する。小布施町などとは全く雰囲気の違い、独特の街並保存のように感じるが、やはりこの街並を歩いたであろう良寛さんは、今をどのように想うだろうか。独自の進化発展を遂げた日本の携帯電話を称して「ガラパゴス携帯」というが、他とは違う出雲崎独自の街づくり思想があつていい。良寛さんもそう考えるに違いない。

そんなことを想いながら歩いてみると、獄門跡まで来た。下らない独りよがりの想いに、牢屋に入れられそうな気がしてきた。とりあえず、今日のところはここまでにしよう。



改めて出雲崎町を考える

出雲崎町教育委員会

相川 良和

六年前、期待と不安を抱きながら中永トンネルを通って出雲崎中学校に赴任した。生徒達は、純粋さだけでなく、エネルギーとパワーを持ち合わせていた。この素晴

しい子ども達とともに過ごした三年間は、教員生活の中でも思い出に残る三年間となった。

当初出雲崎町については、「良寛誕生の地」という知識しか持ち合わせていなかった。その後、妻入りの街並み、地域に根づく「句会」など、天領地として栄えた文化が今でもしっかりと息づいていることを改めて学んだ。

県の景勝百選一位の場所から眺める、佐渡をバックに日本海に沈む夕日は、格別のものがある。小高い丘から眺める妻入りの街並みは、江戸時代の栄華を彷彿させる。

平成の大合併と共に、長年培われてきた文化が失われつつある地域があるとも聞いている。例えば、地域が広くても、狭くても、そこに暮らす人々は、地域の文化の中で育ち、やがてその文化を担う人間となる。

素晴らしい子ども達も、きっと出雲崎という文化の中で育まれてきたのだらうと感じた。

現代に目を向けると、行政に携

わる職員は、名前を聞くだけでこの誰かわかる。また、町を挙げて子ども達を育てることに取り組んでいる。これだけ、地域と密着した行政も広域化が進む現代にあつて貴重な存在だと考える。

金山の玄関口、天領の地として栄えた出雲崎の文化は、現代の出雲崎町に脈々と受け継がれている。子ども達には、出雲崎の歴史と文化をしつかりと受け止め、出雲崎町を心の港として、しつかり成長して欲しいと願っている。

佐渡から出雲崎へ

出雲崎駐在所 渡邊 正明

出雲崎の皆さんこんにちは。出雲崎駐在所の渡邊です。

皆さんは「巡回連絡」というものを存じでしょうか。

巡回連絡は警察官の仕事の一つで、お家を一軒一軒訪ねて、そこに住んでいる方の話を聞いたり、警察官から情報を提供したりする

ことです。

多くの人と顔を合わせ、様々な話題を耳にすることで出雲崎の様子を知る上でも、また個人として見地を広げるためにも巡回連絡はうってつけなのです。

そんな巡回連絡を通じて、私が出雲崎の町並みから感じたイメージは、「佐渡の町並みに似ている」というものでした。

実は、私はこの春まで佐渡で勤務していたのですが、佐渡・出雲崎の両方とも歴史有る建物が軒を連ねて一つの「まちなみ」を作っていますし、神社・仏閣が多いところも共通しています。

両方とも漁師町だから街並みも似ているのでしょうか。

佐渡は現在も漁業を生業にしている方が多いです。

出雲崎は、一昔前まで漁師の数は大変多かったと聞きましたが、妻入りの街並みが形成された当時の出雲崎の人口から考えると、極端に漁師が多かったわけでもなさ

そうです。

では、なぜ出雲崎と佐渡の街並みが似ている印象を与えるのでしょうか。

両方とも江戸時代に幕府が要所として拠点を築いたから？

それとも、出雲崎と佐渡の交易が盛んだった頃の名残？

そんな事を考えながら違った視点で仕事をするのも楽しいものです。

最後になりますが、出雲崎の安全・安心をしつかり守っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。



妻入りの街(四十五)

住吉町 磯野 猛

良寛堂建立と、それに協力した人々

平成二十四年は出雲崎町のシンボル、良寛堂が完成して九十年になります。

この良寛堂建立の陰には郷土史家の佐藤耐雪翁の力がありました。耐雪翁は、出雲崎編年史の編纂を心がけられたところから、良寛を偲び、その遺徳を顕彰するため「良寛寺」を建立したいという念願を持っておられました。大正初期、日本では良寛に対する研究・評価の機運が高まり、それは良寛の出生地である出雲崎でも同様でした。耐雪翁は町の心ある人たちに提唱されました。その呼びかけに応じた人々が少しずつ集まり、「良寛寺」を建立しようという機運も熟してきました。耐雪翁は当時宗教界でも著名であった出雲崎町市野

坪出身の豊山大学学長 権田雷斧（らいふ）師に相談、曹洞宗師家の新井石禅（せきぜん）師、東洋大学学長の大内青巒（せいらん）師、そして良寛の研究をされていた山田寒山（かんざん）師を「良寛寺を『良寛寺造営顧問』とし、また自らは発起人を代表して地元の方々と共に『良寛寺造営企願人』として名を連ねました。

【良寛寺造営企願人】

- ・ 佐藤 耐雪 氏
- ・ 永滝 文作 氏
- ・ 加藤 直重 氏
- ・ 佐藤 久七 氏
- ・ 勝井 幸太郎 氏
- ・ 磯野 辰四郎 氏
- ・ 鳥井 儀資 氏
- ・ 八木 徳太郎 氏
- ・ 新津 恒吉 氏
- ・ 近藤 平八 氏
- ・ 佐藤 長之助 氏
- ・ 本間 栄蔵 氏

このことについては、耐雪翁が日常の事を記した「用留」に年代順に記されております

・ 大正四年 真言宗豊山派の大僧正、権田雷斧師、寒山寺住職、山田寒山師と「良寛寺建立の相談をする。」「大愚山良寛寺造営趣意書」を近藤潤次郎氏に依頼、草案が執筆される。

・ 大正六年 権田大僧正を訪問。良寛寺の勧進を相談、出雲崎町の有志で良寛会を開催。以後度々会を開いて建立運動の相談をする。相馬御風氏初来町、講演をされる。初対面の耐雪翁は漁夫うさんの協力をしていただくことになった。

こうした地道な運動を続け、耐雪翁の熱意により運動の輪が大きくなり、中央でもこの呼びかけに応ずる人たちが増加してきました。（もちろん御風さんと雷斧大僧正の協力も大きかったわけですが。）この運動に賛同した、中央の著名な方々の名前を次に記します。

- ・ 安田鞞彦【日本画家】
- ・ 正木直彦【東京美術学校（現在の東京藝術大学）学長】
- ・ 高浜虚子【俳人】
- ・ 富岡鉄斎【画家】
- ・ 小林古径【日本画家】
- ・ 橋本関雪【日本画家】
- ・ 小杉放庵【洋画家、日本画家】
- ・ 小堀鞞音【日本画家】
- ・ 津田青楓【画家、書家】
- ・ 小川芋銭【画家】
- ・ 山口蓬春【日本画家】
- ・ 川合玉堂【日本画家】
- ・ 郷倉千靱【日本画家】
- ・ 岩田正己【日本画家】
- ・ 堅山南風【日本画家】
- ・ 人見少華【日本画家】
- ・ 富取風堂【日本画家】
- ・ 田中案山子【日本画家】
- ・ 森田沙伊【日本画家】
- ・ 中村岳陵【日本画家】
- ・ 野田九浦【日本画家】
- ・ 寺崎広業【日本画家】
- ・ 横山大観【日本画家】
- ・ 下村観山【日本画家】
- ・ 川端竜子【日本画家】
- ・ 前田青邨【日本画家】

いずれも大正・昭和を代表する日本の芸術家たちです。この人たちは「良寛堂（運動の輪が全国的になるにつれ、当初の「良寛寺」からこう呼び名が変わっています。）」建立のために作品を何点も寄せてくださり、特に安田鞞彦さんは、御風さんと雷斧大僧正と共に作品を集め、資金援助の労を取られました。耐雪翁の人柄と熱意が花開いたのです。そして出雲崎町井鼻にある全久院の住職 塚本格道師の活躍も耐雪翁のために町の人たちをその気にさせ、良寛堂建立への力となったのです。

今回、良寛堂建立九十周年を記念し、様々な行事が行われますが、9月16日（日）の記念式典の中で、耐雪翁の孫に当たる全国良寛会参与の反町タカ子さんと、県内の良寛研究家である小島正芳さんが、それぞれ良寛堂建立の動きについてや、良寛堂建立当時の良寛顕彰の動きについて講演をされる予定です。

お知らせ

「第8回街並み
ギャラリー」開催

出雲崎町には、昭和62年から東京藝術大学日本画科の学生が合宿に訪れ、その際に出雲崎の街並みを描いたスケッチ画を残しています。私たち協議会では、毎年「街並みギャラリー」として、この街並みスケッチ画を妻入りの町屋をお借りして展示しております。第8回目を迎える今年度は、**9月15日(土)から17日(月、祝)**までの3日間に渡って展示をします。ですので、皆さま是非ご鑑賞ください。

良寛堂建立九十周年
記念事業を行います。

良寛堂が、佐藤耐雪翁によって建立されてから今年で90年という節目の年を迎えます。それを記念し、次のとおり様々な行事を行います。

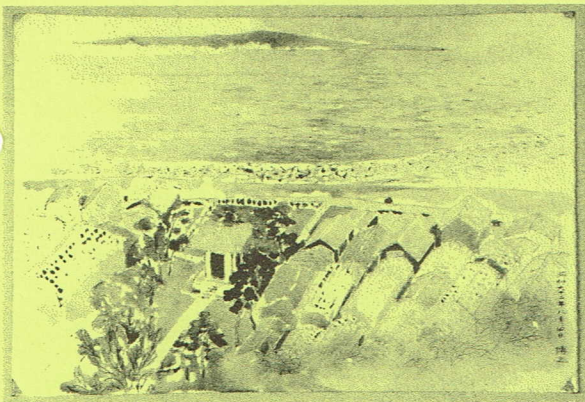
います。皆さま、ぜひお誘いあわせの上おいでになってください。

○記念企画展

- ・日時 9月1日(土)～30日(土)
- ・会場 午前8時30分～午後5時
- ・入館料 良寛記念館 400円

○記念絵画・写真展

- ・日時 9月9日(日)～17日(月、祝)
- ・午前9時～午後9時(ただし日曜・祝日は午後4時終了)
- ・会場 出雲崎町中央公民館 講堂
- ・入場料 無料



○記念式典

- ・日時 9月16日(日) 午前10時～
- ・会場 出雲崎町民体育館
- ・入場料 無料

■記念講演(10時20分～)

- ・演題 「良寛堂建立のお話し 耐雪の用留を見て」
- ・講師 全国良寛会参与 反町 タカ子 様

・演題

- 「明治・大正の良寛顕彰の潮流について 『僧良寛歌集』の刊行から良寛堂建立まで」
- ・講師 良寛研究家 小島 正芳 様

■昼食会(12時30分～)

※講師を囲んだ昼食会を行います。参加をご希望の方は事前の下記のお問い合わせ先までお申込みください。なお、昼食代800円が必要です。

■記念行事(13時45分～)

「良寛の書に思いを寄せて」と題しまして、東京学館新潟高等学校書道部のみなさんによる書道パフォーマンスを行います。

※上記の「第8回街並みギャラリー」及び「良寛堂建立90周年記念事業」についてのお問い合わせは、

出雲崎町教育委員会(TEL 0258-178-2250)までお願いいたします。

あとがき

このかわらばん「妻入り」を、最後のページまで読んでいただき、ありがとうございます。今年度も、あとがきを書くことになりました。よろしく願いいたします。

このかわらばん「妻入り」の発行日は、配布スケジュールの都合により毎号決まっていますので、都合により編集会議が進まなくても発行日を遅らせる事ができません。今号もスケジュールが厳しい中、原稿を書いてくださった皆さんのご協力により、なんとか発行まで漕ぎ着けることができました。ありがとうございました。

石井町 納谷稔